

新春対談

91年の韓日関係を展望



長谷川 峻議員



朴炳憲団長

海底トンネルでソウルへ いまや世界は和解の時代

対談者

民団中央本部団長

朴 炳 憲

衆議院議員(日韓議連法的地位委員長)

長谷川 峻

仏教もそうだし、弱いとか強いとかの問題ではない。ヨーロッパを見て御覧なさい。あれだけ嫌がっていたフランスとドイツが一緒になって欧州全体の政権が生れるのですよ。これを思えば米を食べる民族は、米を食べる民族特性の中で講和し、経済復興したりしなければならぬ。

お国は一人ひとりのバイタリティが強く素張らしい。私達は会社としてはいいが、お宅は一人ひとりがみなバイタリティが強い。

オニアであり、明治維新のとき事業をおこした岩崎弥太郎みたいな人が多い。私はアジア全体が世界文化や経済に飛躍する時代がきたのだと思います。

釜山間に海底トンネルを掘り、東京から新幹線でソウル、平壤、北京まで行くという話を大統領との間で話われたら、良いんじゃないかと思うんですが。

トンネルも私も青函トンネルを掘った経験があるからいくらでも手伝いますよ。

長谷川議員「新幹線は日本がバイオニアですよ。先程フランスのミッテランさんが韓国政府に盛んに売り込んでますがね。」

そして韓日両国間文化交流だとかどんどん進んでいくのではないかと思います。是非先生方の御尽力をお願いします。

長谷川議員「微力ですけれども、私は日本がたつていくには一番近い国と仲良くしたい。長谷川議員「先だって大統領とお話申し上げたときに、民族間交流が駄目になったと、き第一回南北総理会談をやりましたね。私などが二回、三回と続けるんでしようねと申し上げたら大統領はいわ

件降服してから平和ボケして国防をあまり考えない。だから湾岸問題なんか起きてもうろうろしている。金はいくら出しても軽蔑される。ひとつも役にたたん。

私は韓国が後にいくつものトンネルを抱えながらもあれだけの素張らしい国を造っているそのバイタリティと根性を感じているのです。

朴団長「先生のお話をお伺いしてまずと非常に希望が持てます。南北統一の問題も一生懸命努力すれば一歩一歩進むのではないかと思います。」

く、韓国にはこういう諺がある「はじめたことは半分でき」ということです。何と素張らしい答えでありませんか。おそらく南北会談は成功するでしょう。いまや世界は和解の時代です。だからこの姿勢で盧大統領は日本に來られたあとアメリカに行つてラルバチョフ大統領とお会いして世界の中の韓国になったのじゃないですか。そういうことで最大の敬意を表します。

朴団長「昨年の十二月に盧大統領はソビエトをはじめて訪問されましたが、私達は私達が生きている間に韓国の大統領がモスクワに行つてソ連の大統領と会談するなど想像すらできなかったことです。今日は本当に有難うございました。」